

人生ハンド仏句

第94号

H. 22. 1. 1

(毎月1日発行)

いのち

住職 谷川寛俊

「鳥は木に住む、ゆえに木を財とす。
魚は水に住む、ゆえに水を財とす。
人は食によりて生あり、ゆえに食を財とす。
いのちと申す物は一切の財の中において、第一の財なり。」

日蓮大聖人ご在世の時代は、台風や大地震による自然災害、疫病の蔓延(まんえん)による死者の増大、そして蒙古の襲来、世の中の不安から、この世を捨ててあの世へという思いが人々を覆(おお)っていました。

この様な状況にあつて、「死後は西方十萬億土の彼方にある阿弥陀さまのまします極楽という世界へ」というフレーズが大いに受けて人々の進行を集めました。

それに対し、日蓮大聖人は西方十萬億土という架空の「他土(たど)」ではなく、現実の「此土(しど)」、即ち娑婆世界に於いて私達は仏となる、成仏することがお釈迦さま本来の教えである。私達の生きる存在意義は、この世で苦と共にあつてこそ価値があると訴えられたのであります。娑婆とは、インドの言葉で「忍土(にんど)」と訳されます。

私達が住むこの娑婆は、法華経に有りますように、「火宅の如く」「常に生老病死の憂患(うれん)のある忍土の世界であるのです。この忍土で、苦難の中で生きていくことこそ最も大切なことである。その中で「いのち」の尊さを実感せよ

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集 部 谷川久仁子
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoiyama108/>

といわれたのが日蓮大聖人なのです。「極楽百年の修行は穢土(えど)一日の功(こう)に及ばず」(報恩抄)「他土」へと逃避(とうひ)することなく、この混沌(こんとん)とした穢(けが)れた世でしっかりと生きていく、苦の修行を味わって生きてこそ大事なのだとおっしゃっているのです。つまり、極楽で楽しい思いをして修行するよりもこの穢土(けが)れた現実のこの世の中)で、わずか一日でも良いから修行する方が、はるかに勝(まさ)つているというのです。そして私達は「食」を基(もと)としてある「いのち」は、すべての財宝の中で第一の宝なのであります。しかしながら現在日本における自殺者は、毎年三万人を軽く越えているのです。本人にしか分からない悩みがあるのでしょうか、私達の「いのち」は、この穢(けが)れた悩み多い苦しみの現実の今の世に身を置いて

こそ価値があるのです。新しい年を迎えるに当たり、命の尊さというものを、もう一度考え直す機械にしたいたいです。本年も宜しくお願い申し上げます。

「一人の私」は無数の ご先祖の命のつらなり

